

## 知多半島観光圏における観光客の周遊行動に関する研究

○名城大学大学院 学生会員 佐藤 翔太  
 名城大学 非会員 山岡優加理  
 名城大学 正会員 鈴木 温

### 1. 本研究の背景と目的

近年、観光庁の支援により、観光圏の整備が全国で進められている。高い魅力を持つ観光圏を形成していくことで、観光圏域内全体の活性化が期待されている。しかし、このような観光に関する積極的な動きは見られるものの、国内宿泊旅行回数<sup>1)</sup>や、それに伴う周遊範囲は伸び悩んでいることも事実である。観光客に広域的な周遊を促し、観光圏域内全体の活性化を図るためには、観光圏に訪れる観光客の周遊行動を十分に把握した上で、周遊促進方策検討が必要である。

そこで、本研究では知多半島観光圏<sup>2)</sup>における観光客の周遊行動を把握し、広域周遊を促す方策を検討することを目的とする。

### 2. 本研究の位置づけ

奥村らは<sup>3)</sup>自然・歴史型観光資源を有する地域周辺では、都市・施設型観光資源と連携した観光圏形成が有効であるという知見を得た。しかし、これまでの研究では、観光圏における観光客の動きを細かく把握し、広域周遊方策を検討する研究は蓄積が少ない。

そこで、本研究では観光圏における観光客がどのように周遊しているかを明らかにした上で、観光客が広域的に周遊するための方策について検討する。

### 3. 研究方法

本研究では(1)観光圏に関係する団体へのヒアリング (2)観光客への観光行動調査を実施した。

上記2つの調査に対し本研究では、愛知県の知多半島観光圏を調査対象地域として選択し、観光圏における観光客の周遊行動の把握を試みる。

#### 3.1 関係団体へのヒアリング

知多半島観光圏の実態や現状の問題点を明らかにするため、本研究では2010年8月に南知多町役場商工観光課へヒアリングを行った。ヒアリング内容は、知多半島の観光の背景と現状、現在までに行ってきた観光

政策、地域間連携である。

#### 3.2 観光客への観光行動調査

観光客の周遊行動の実態を明らかにするため、本研究では観光客を対象とした観光行動調査を行った。2010年11月に知多半島の4か所の観光地にて、209組の観光客に対して観光行動調査を行った。調査場所を図-1に、質問項目を表-1に示す。

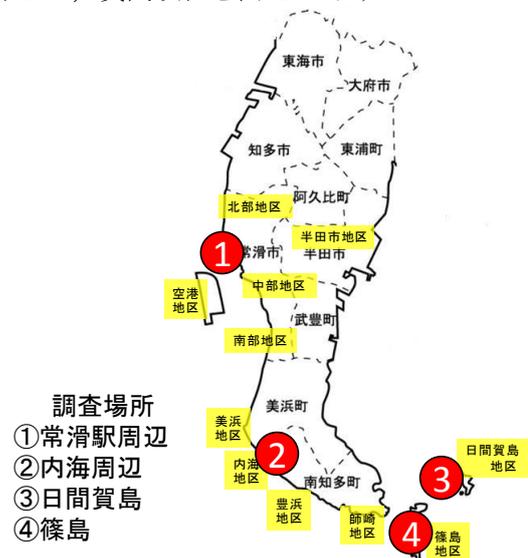


図-1 調査場所

表-1 調査項目と調査対象の概要

<p><u>旅行プランに関する質問</u>            旅行形態, 旅行人数, 旅行目的, 旅行先決定理由, 滞在期間, プラン作成法, 情報, 予算, 宿泊施設, 観光ルート, 交通手段, 訪問場所決定理由</p>
<p><u>個人属性に関する質問</u>            性別, 年齢, 居住地</p>

### 4. 調査結果

#### 4.1 関係団体へのヒアリング結果

自治体へのヒアリング結果を以下にまとめる。

- ・知多四国八十八か所めぐり等、歴史的、文化的につながりが強い地域で観光圏域を決定した。
- ・近年、中部国際空港が完成したが、観光圏域への集客増には十分につながっていない。

- ・地域の産業や農業・漁業を活かした観光を推進しようと計画が立てられている。
- ・知多半島観光圏は平成22年4月に認定されたが、今年度は補助金がつかず、各市の負担で観光政策を進めている。

4.2 観光客への観光行動調査結果

表-2は各調査場所とサンプル数、ヒアリングの被対象者の属性を示している。平均旅行人数は常滑が最も少なく、他の調査場所より個人客が多いことが分かる。旅行期間では日帰りも多いが、2泊3日以上は常滑が最も高かった。

本稿では、そのうち、常滑で調査した対象者の結果を図-2に示す。常滑市はセントレア、名古屋とのアクセスが良く、その間を移動している観光客が多く見られた。観光圏北部から南部へ移動する観光客の割合は少なく、南部への周遊促進が課題である。なお、観光客の旅行目的は歴史的建造物が目的として最も多く、観光圏内に南知多温泉郷があるにも関わらず、一般的に旅行目的となりやすい温泉はほとんどの観光客が理由として挙げなかった。

次に表-3に観光客の行動形態別比較を示す。53.3%の観光客が常滑市内のみの移動であり、36.7%の観光客が常滑以外も含めた広域的な周遊を行っていた。また、10%の観光客が予定を決めていなかった。居住地は愛知県内が全体の65%を占めていたが、その多くが常滑市内のみの観光であり、広域周遊している観光客は県外からの割合が高かった。また、広域周遊者は事前に観光情報を得ている割合が高く、旅行先でも情報収集に積極的だった。移動に関してはいずれのグループも自家用車の利用が多かった。

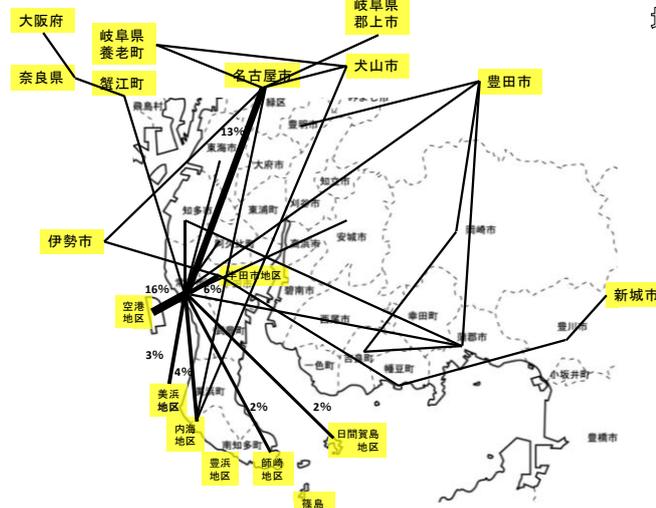


図-2 常滑市における観光客の旅行中の移動

表-2 観光客の調査場所別個人属性

		常滑駅周辺	内海周辺	日間賀島	篠島
サンプル数(組)		91	21	63	34
男女比	男性	37.3%	66.7%	56.4%	58.1%
	女性	62.7%	33.3%	43.6%	41.9%
平均旅行人数(人)		2.5	5.3	8.6	3.4
旅行期間	日帰り	72.5%	76.2%	68.9%	20.6%
	1泊2日	18.7%	23.8%	27.9%	79.4%
	2泊3日	4.4%	0.0%	3.3%	0.0%
	3泊4日以上	4.4%	0.0%	0.0%	0.0%

表-3 観光客の行動形態別比較

		常滑市内のみの観光客	広域周遊している観光客	予定が未定である観光客
全体からの割合		53.3%	36.7%	10.0%
旅行期間	日帰り	91.7%	42.4%	66.7%
	1泊2日	8.3%	33.3%	33.3%
	2泊3日	0%	9.1%	0%
	3泊4日以上	0%	15.2%	0%
居住地	愛知県内	77.1%	45.4%	77.8%
	東海(愛知県以外)	16.7%	18.2%	0%
	それ以外	6.2%	36.4%	22.2%
観光情報	旅行先で観光情報を入手した観光客の割合	33.3%	45.5%	44.4%
	プラン作成時に観光情報を入手した観光客の割合	54.2%	66.7%	33.3%
	車移動である	64.6%	69.7%	55.6%

5. 観光圏としての提案と課題

これまでの調査結果から、集客力のある歴史的観光資源を有し、他地域からの流入がしやすい常滑と、食に関するブランド力や温泉郷を有する滞在促進地区としての南知多とのつながりの強化が必要であると考えられる。地域特性上多くの観光客が自動車移動であるため、公共交通利用者への移動サービスの向上、県外客にも分かりやすい情報発信や地域間の連携強化を行うことが有効であると考えられる。

6. おわりに

本研究では、知多半島観光圏に着目し、関係団体へのヒアリングと観光行動調査から観光客が広域周遊する方策の検討を行った。結果、知多半島観光圏では南北のつながり強化が必要であるという結果に至った。

今後、他の調査場所での観光行動調査結果を含め、分析を進め、知多半島観光圏における観光客の周遊行動に関する考察をさらに深めたい。また、観光圏とは違う連携形態で観光事業を行っている地域においても調査を行い観光圏との比較を行う。

[参考文献]

- 1) 国土交通省 平成21年度版観光白書
- 2) 国土交通省観光庁 知多半島観光圏整備計画
- 3) 奥村誠・塚井誠人：観光圏形成に向けた観光資源の地域間連携に関する研究，土木計画学会研究・論文集，Vol.25, no.2, pp.349-355, 2008